

令和6年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会医療法人 清風會	代表者	理事長 森 崇文	法人・ 事業所 の特徴	社会医療法人が運営しており、医療機関（在宅支援診療所・地域包括ケア病棟）訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所との連携がとりやすい。「いつまでも住み慣れた街で一緒に自分らしく暮らす」そのための仕組み作りで法人で取り組んでいる。一人暮らしの方でも認知症があっても、地域の自宅で長く暮らせるように、訪問介護に力を入れている。また、内服薬の管理がうまくできないことで入退院を繰り返すことがないように内服薬管理と健康チェックに力を入れている。医療がすぐ近くにある安心感を持っていただける事業所である。
事業所名	あかるい農村つやま	管理者	小椋 美恵子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	4人	人	人	1人	0人	3人	人	9人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価の低かった項目について各自が目標を立てる。ケアプランについて介護報酬改定について理解を深めていけるように研修を充実させる。担当している利用者さんを理解する前提条件としてケアプランを十分理解していく。	各人が評価項目についてできていないと思うことを課題に挙げ目標に向かって実践できた。担当者意識は根付いてきたが、ケアプランについての意識が薄いメンバーもいる。利用者さんを理解しようとする努力はできていた。	目標が高すぎるのではないかと 思うくらい努力していると思う。 家族対応等もよくやっておられ ると思う。目標通りにやっていく のはかなり難しい事だと思う。	研修した知識を生かしながら目標を立 てて、各自の不足しているところを実 践していく。引き続きケアプランをよ く理解できるように伝達し学んでい く。
B. 事業所の しつらえ・環境	ゆっくりくつろげる空間づくりをしていく。音楽を流す工夫をしていく。	音楽を一時期流したりしたが、継続はできていない。利用者さんがくつろげるタイミングや内容での検討をもっとすべきだった。ダイルムの片づけはチーム目標としてメンバーが担当しできたが、脱衣所の空間がもっとゆったり感じるよう改善すべきとの意見が上がった。	来訪する機会が少なくよくわか らないが、入りにくさはないと思 う。	脱衣所の空間を、くつろげるものにし ていく。その他利用者さんがくつろぎ 心地よい空間になるよう、物の配置等 考えていく。
C. 事業所と地域の かかわり	勝北ふるさと祭りへの出店をチャレンジ。 スマイルカフェの再開で引きこもり 予防と介護相談窓口を広げる	数回マルシェに出向く ふるさと祭りを見学しに行った スマイルカフェ再開をしたが来所者への広報 ができなかった	日本原地区の夏祭りや甘酒祭り など行事等には声をかけて、事 業所として利用者さんと共に参 加してくれている	スタッフが利用者さんと共に地域のイ ベントに参加できる、又認知症カフェ の運営の仕組みを考え直していく。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	引き続き地域のお店同行等、利用者 さんが暮らしやすい支援を継続する 地域で開催されているマルシェなど に定期的に出かけてみる。	個別的に必要な方については買い物とか通いの 行き帰りに一緒に地域の店に出かける支援 ができた。選挙や役場への用事等にも一緒に 出掛ける事が出来た。	利用者さんの住んでいる地域全 般は難しいと思う。	気軽に、誰でも用事を頼める仕組みを 作っていく。車の運転が出来なくな った利用者さんが、気軽にお出かけが できる生活を支援していく。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	利用者家族への参加を計画的に進め ていく	家族参加は難しかったが、地域の委員さんか ら意見を頂くことができた。三叉路にカーブ ミラーの設置等区長さんをお願いし快よく動 いてくださった。	会議が相談し易い場所になっ て行けばよいと思う	事業所内では気づきにくい地域の様子 や希望を、気づいていくためにも計画 的に、ご家族が会議に参加できるよう に計画していく。
F. 事業所の 防災・災害対策	夜間想定の実験を実施する。区長さ んの参加もお願いして実施する。	夜間想定の実験は実施できた。	地域が頼れる事業所を目指す とともに地域にも頼ってもらえる よう連携していくとよいと思う。	地域の防災の取り組みに参加してい きながら、災害対策を訓練していく。